

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500639		
法人名	医療法人 清樹会		
事業所名	グループホーム碧		
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の生活歴や医療情報を共有し、事業所理念に即した「なごみのある家庭的な生活」を目標としている。職員や入居者同士がふれあえる場として、広々としたホールで心豊かに過ごせる生活の場の提供と、個々の能力に合わせた自立支援を実施している。
また、今年度より看護職員を配置し、異常の早期発見と適切な医療連携を行い多様なニーズに対応できるような体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、リビングから阿波の山なみや、ゆったりと流れる吉野川、堤防をジョギングする人たちなどが見え、利用者が心豊かに過ごすことのできる生活の場となっている。今年度からは、看護師を配置し、利用者の健康管理や医療面での相談を受けている。介護職員は、利用者一人ひとりの心身状況の変化を看護師に伝え、看護師と連携しつつ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。協力医療機関とは24時間の連携体制を構築し、利用者と家族の安心へつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合い事で繰り返し確認し、理念に沿った業務が実践できるようにしている。	事業所は、開設当初からの理念を大切にしている。職員間で、地域密着型サービスの意義を確認し、利用者が住み慣れた地域で継続して生活するための支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の地域夏祭りへの参加、10月に開催される祭りでは子供神輿の慰問。12月には地域子供会との合同クリスマス会を開催し、地域交流に努めている。	利用者と職員は、地域のお祭りに参加したり、一緒に買い物にでかけたりして近隣の住民と挨拶を交わしている。また、事業所で地域の子供会とクリスマス会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症者について適切な介護方法や接し方についてを説明を行い啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めてあらたに意見をもらったりしている。また、職員からの研修報告や事例発表を行い施設の取り組みや方針に理解を頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の現状や事業所の取り組み、職員の研修報告を行っており、出席者から助言や意見を得るなど、活発に意見交換を行っている。会議で出された意見は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議に参加して頂くと共に月初めには入居状況を担当窓口（健康推進課）へ入居状況を報告し、助言やご協力を頂いている。	職員は、町の担当窓口に出向き、担当者に事業所の現況報告書を手渡している。その際に制度に関することなどを相談して、助言を得ている。町担当者からも相談を受けることがあり、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在行っていない。しかし定期的な身体拘束委員会の開催や研修を受講し、正しい理解と身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、徳島県が主催している研修にも参加している。	事業所では、身体拘束に関する研修会を開催し、全職員が身体拘束の具体的な内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出希望の利用者には、安全に配慮しつつ、職員が同行し、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー参加やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされることのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一名が成年後見制度利用。制度についてはセミナー等に参加し、学ぶ機会を設けている。そして、必要な場合には権利擁護に関する制度を活用し、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明と理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には意見をゆっくり聞くようにしている。	事業所では、日頃の利用者との関わりのなかで、利用者一人ひとりの意向や希望の把握に努めている。家族からの意向や希望の把握のため、イベントを組み込んだ参加型の家族会の開催を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き検討し運営に反映している。	管理者は、ミーティングなどの機会には職員の意見やアイデアを聞き、必要に応じて、代表者に意見を伝えている。職員の提案を運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。また、職場改善委員会でのアンケートを通じて各職員が向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、法人内の勉強会及び外部研修、同法人GH合同勉強会など積極的に進め、多くの職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加や他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動について勉強会を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会をつくり把握に努めている。また、必要に応じて家族に連絡を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、共同生活に参加してもらえ場面作りや声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流ができるよう外出や面会の支援をし引き続き交流ができるように働きかけている。	職員は、利用者が大切にしてきた人や場所との関係を継続することができるよう支援している。家族の協力を得て墓参りに出かけたり、利用者と一緒に山登りをしていた友人が山の写真を持って来訪したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、気の合う入居者同士で楽しく過ごせる時間を作るように職員が心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂き、近況や様子をお伺いし、相談援助している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	職員は、日頃の関わりの中で、利用者一人ひとりの言葉にじっくり思いを、行動や表情に着目して把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、全職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じ、今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や生活リズムに合わせて体調や能力を確認しながらできる事を見出すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映している。必要に応じて看護師や理学療法士、作業療法士の意見なども取り入れられている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。	事業所では、利用者と家族の意見や要望を反映した介護計画を作成している。3か月に1回、介護計画の見直しをしている。利用者の心身状態の変化や家族の要望に応じて、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしています。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院付き添いや、受診など必要な支援は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会、夏祭りへの参加などの機会作りを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によるかかりつけ医と随時対応が可能である体制を確保している。	事業所では、利用者や家族が、希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員は、家族の協力を得て、受診を支援し、医師に利用者の普段の様子を伝えている。今年度より、看護職員を必要に応じて配置し、利用者の健康管理や状態変化の把握に努め、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は、看護職員を配置しており、夜間においても看護職員、連携医療機関との連絡も密に取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療と情報を密にし、早期退院に向けて意見交換や相談に努め連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援説明は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームのできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。	事業所では、契約時の段階で重度化した場合や終末期の支援のあり方について、本人や家族に説明し、同意を得ている。利用者や家族の意向を確認しつつ、医師や関係者に対応方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習の受講や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、1Fデイサービスと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害の発生に備えての防災意識を高めている。	年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難誘導訓練を行っている。火災以外にも地震や水害等さまざまな災害のマニュアルを作成している。地元消防団との協力体制を整えており、非常用食料や備品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、さりげない言葉かけや対応又、居室の出入りに当たっては入居者のプライバシーに配慮している。	事業所では、個人情報についての研修を実施し、プライバシー保護について職員間で対応を共有している。トイレ誘導の際には、さりげない言葉かけや対応を心がけている。利用者の居室に入る際には、必ずノックや声かけを行うなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みに応じて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などはその日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は自分で着る物を選んでもらい個性を大切にしている。訪問美容で身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。	事業所では、同一法人が運営する併設の事業所の管理栄養士が作る献立を参考に、利用者一人ひとりの好みを取り入れたメニューとしている。利用者がそれぞれの力量に応じた役割を担うことができるよう工夫している。利用者と職員は、同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士の相談の元、量やバランスを考え楽しんで食べていただけるよう支援している。状況に合わせてミキサー食、キザミ食、栄養補助食品等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄支援をしている。トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せるような支援をしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。職員間で連携を図り、日中は、トイレでの排泄を支援している。紙パンツやパット類の使用も、利用者の状態に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり、食事内容を再検討している。また、適度な運動をしていただく働きかけもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせ清拭に変更したりたり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	事業所では、利用者の希望にそった入浴を支援している。利用者の入浴に対する負担感に配慮し、楽しく入浴できるような言葉かけの工夫を行ったり、職員を交替したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩を取り入れたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また個別で、自宅・お墓参り・外出を家族の協力を得ながら外出の機会を支援している。	職員と利用者は、日常的に出かけている。事業所に隣接するコンビニへ買い物に出かけたり、近隣の神社への初詣や花見など、季節に応じて外出をしたりしている。家族の協力を得て、墓参りなどの外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要な時に手渡し使えるように支援している。買い物の際には自分で支払うことができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。また、利用しやすい雰囲気作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。	居間の日当たりの良い窓際に、リクライニングシートの椅子を設置するなど、家具の配置に工夫している。ホールには、写真や生花、観葉植物を飾り、季節感のある居心地の良い空間となっている。利用者はそれぞれ好みの場所で新聞や本を読んだり、利用者同士でおしゃべりを楽しんだりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子、ソファ、入居者同士で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みのあるものや思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。	居室には、利用者の使い慣れたタンスや小物入れなど、馴染みの家具や、家族の写真、生花などを持ち込んでもらっている。利用者は、毎朝、モップで自室や廊下を掃除している。事業所は、整理整頓に気を配り、利用者が居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討を行っている。トイレ前や居室前には看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹門 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で理念や方針、目標を具体的に伝え話し合い事で繰り返し確認し、理念に沿った業務が実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の地域夏祭りへの参加、10月に開催される祭りでは子供神輿の慰問。12月には地域子供会との合同クリスマス会を開催し、地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受け入れる体制を整えており、認知症者について適切な介護方法や接し方についてを説明を行い啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めてあらたに意見をもらったりしている。また、職員からの研修報告や事例発表を行い施設の取り組みや方針に理解を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議に参加して頂くと共に月初めには入居状況を担当窓口（健康推進課）へ入居状況を報告し、助言やご協力を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施しない方針に基づき徹底している。定期的な身体拘束委員会を通して正しい理解とを進め代替ケアの実践に努めている。また、徳島県が主催している研修にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー参加やミーティングで話し合い、全職員が共通意識を持つ事で、虐待が見過ごされることのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一名が成年後見制度利用。制度についてはセミナー等に参加し、学ぶ機会を設けている。そして、必要な場合には権利擁護に関する制度を活用し、支援できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を用い入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望、要望を確認し、事業所としてどのように対応しているのかを説明と理解が得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には意見をゆっくり聞くようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングの機会を設け、意見や要望を聞き検討し運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得の努力、研修への参加意欲を処遇に反映させている。また、職場改善委員会でのアンケートを通じて各職員が向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ、法人内の勉強会及び外部研修、同法人GH合同勉強会など積極的に進め、多くの職員が研修を受け学ぶ機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修参加や他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動について勉強会を行い、サービスの向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し生活状態や不安に思っている事を聴く機会をつくり把握に努めている。また、必要に応じて家族に連絡を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を持ち、ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に面談を行い、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、共同生活に参加してもらえ場面作りや声かけを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員間で暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流はできているので、引き続き交流ができるように働きかけている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、気の合う入居者同士で楽しく過ごせる時間を作るように職員が心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、通所サービス利用の方はデイサービスの方でお声かけさせて頂き、近況や様子をお伺いし、相談援助している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、状況把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じ、今までの職業や趣味、家族環境等をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方や役割等、その方の体調や能力を確認しながら実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思を確認し、介護計画に反映している。必要に応じて看護師や理学療法士、作業療法士の意見なども取り入れている。作成時及び見直しは家族に開示し同意を得ている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個人のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしています。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院付き添いや、受診など必要な支援は対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		民生委員、地域包括支援センターや他グループホームとの意見交換する機会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会、夏祭りへの参加などの機会作りを支援している。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		本人や家族の希望によるかかりつけ医と随時対応が可能である体制を確保している。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		日中は、看護職員を配置しており、夜間においても看護職員、連携医療機関との連絡も密に取れる体制を確保している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入退院の際は医療と情報を密にし、早期退院に向けて意見交換や相談に努め連携を行っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化の支援説明は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。本人家族等の意見を尊重しつつ、グループホームでできる範囲を説明し、近隣や地域の人達の協力を得てチームで支援する事に取り組んでいる。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		消防署の救急救命講習の受講や急変時マニュアルを用い、急変時や事故発生時の初期対応について研修を行っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回、1Fデイサービスと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。また法人内で防災委員会を立ち上げ、災害の発生に備えての防災意識を高めている。				

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のきもちを大切にし、自ら自分の意思を表現できるよう支援している。介助が必要な時もプライバシーに配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みに応じて支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事・レクリエーションへの参加などはその日の入居者の方の体調、気持ち、表情によって柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性を大切に身だしなみや、おしゃれが楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存能力を活かし、食事の準備や片付けを職員と一緒に楽しく行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を把握、管理栄養士の相談の元、量やバランスを考え楽しんで食べていただけるよう支援している。状況に合わせミキサー食、キザミ食、栄養補助食品等対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア、義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあつた排泄支援をしている。トイレ誘導、介助にて昼間だけでも、紙パンツやオシメを外せるような支援をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄状況を記録している。状況に応じ、日頃より水分を多く摂取してもらったり、食事内容を再検討している。また、適度な運動をしていただく働きかけもしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入居者の希望を確認して入浴して頂いている。また、状況に合わせて清拭に変更したりたり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良く眠れるようになるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上、指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう可能な限り、入居者の能力に合わせて洗濯物干しや衣類のたたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩を取り入れたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また個別で、自宅・お墓参り・外出を家族の協力を得ながら外出の機会を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は家族の希望もあり、ホームで立替金として、必要な時に手渡し使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるよう支援している。また、利用しやすい雰囲気作りに努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子、ソファ、入居者同士で楽しめるスペースを確保している。ユニット同士の交流も行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みのあるものや思い出の品等を配置し、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討を行っている。トイレ前や居室前には看板を設置し、自身で理解できるよう工夫している。			